

ゴジラ対メカゴジラ

■ものがたり

沖繩海洋博の技師、清水敬介は、工事現場の洞穴から怪物の置物とふしぎなへき画にきざまれた予言を発見した。

「大空に黒い山があらわれる時、大いなる怪物があらわれこの世をほろぼさんとす。赤い日が沈み西から陽がのぼる時、二頭の怪物が人々をすくう」

予言は適中した。黒い山——富士山が大爆発し、火口からゴジラが姿をあらわした。この世をほろぼす怪物、それはゴジラなのか？

アンギラスを撃退して暴れまわるゴジラの前に、もう一頭ゴジラがあらわれた。激闘するうりふたつのゴジラ。一頭のゴジラの肌かもえあがり、中からメカニックな姿があらわれた。富士山から出てきたゴジラは宇宙金属で作られたメカゴジラだったのだ。計器が故障したメカゴジラは夜空に姿を消した。ゴジラもきずつき海中に沈んでいった。

宮島博士はメカゴジラからとび散った金属を調べた。洞穴にはなぞの秘密基地があるにちがいない。博士は娘の郁子、正彦とともに洞穴へ向った。秘密基地にはメカゴジラをあやつるブラックホール第三惑星の地球征服司令官、黒沼が三人を待ちかまえ、娘の命とひきかえにメカゴジラの修理を強制した。



修理がおわり三人が処刑される寸前、国際警察の南原たちに救出された。

怪物の置物を持った敬介は、西の空からぼる太陽を見た。「西から陽がのぼる時、この置物を安豆味城の上におけ」敬介は予言どおりにおいた。すると置物の怪物の眼が太陽の光をあびてかがやき、一すじの光線が海岸の絶べきを射た。大音響とともにくずれおちた中から伝説怪物キングシーサーがあらわれた。

しかしキングシーサーはただ眠っているだけである。メカゴジラは今のうちにたたくとばかりキングシーサーを攻げきする。崖がくずれキングシーサーは再び土の中に戻ってしまった。

キングシーサーを目覚めさせるのは、安豆味王族の娘、那美しかない。那美は浜辺で祈りをはじめた。風にのって流れる那美の歌。ついにキングシーサーが目覚め、土煙の中から立ち上った。そしてゴジラも巨体を見せた。ゴジラ、キングシーサー対メカゴジラの戦いははじまるのだ……。

●メカゴジラ

身長50m、体重4万t、宇宙エネルギー源、体の材質は宇宙特殊鋼、角アンテナ、眼虹色の光線を発し物体を一時にして容解破壊、鼻強力な火焰弾を発射、耳ヘッドコントロール受信

装置、頭部強敵に対して眼よりビームを発しながら回転しバリヤーがネットされる、首トレイス装置があり小型ミサイルを発射、胸左胸部に宇宙エネルギー貯蔵タンク、中央部はシャッタースライドし、高圧電磁光線を発射、手指先は強力な破壊力をもつドリル、ミサイル、発射と同時に次のミサイルがセットされ連続発射可能、足膝から時限装置付ミサイルを発射、これも連続発射可能、指先は大型ドリル・ミサイル、足裏からジェット・ファイヤーを噴射し高速で飛行。

●伝説怪物キングシーサー

シーサーとは琉球語で獅子のことをいう。身長50m、体重3万t、全身が朱銅色に輝やく伝説怪物で、その神秘的な姿に、古代琉球人は魔除けの神として崇敬してきた。武器は、左右両眼をブリズム化させ、敵の照射するエネルギーを吸収、逆照射して相手を倒す。

■スタッフ

製作……田中友幸
原作……関沢新一
脚本……福島正実
脚本……福島純
特撮監督……山浦弘靖
監督……中野昭慶
撮影……福田純
音楽……達川謙
音響……佐藤勝

■キャスト

清水敬介……大門正明
" 正彦……青山一也
金城冴子……田島令子
宮島秀人……平田昭彦
" 郁子……松下ひろみ
和倉博士……小泉博
国頭那美……ベルベリン
南原……岸田森
黒沼……睦五郎

(昭和四十九年三月 封切)